

【チリメンジャコの加工設備の導入と漁港内の土地の活用について】

B： 私は、安芸漁協の職員です。安芸市の水産業は、全体の8割がチリメンジャコ、シラス漁です。漁業者層も若い漁師がいて、県内では珍しく後継者のいる漁業種類です。

バッチ漁といい、県の許可で1年中、周年操業の許可があるのですが、漁期は3か月、長くても4か月くらいのもので、その中でも大漁なのは、ほんの数回程度の状況です。

その大漁時に、安芸ではまだチリメンジャコを昔ながらの天日干し処理しているために、加工業者の処理能力が追いつかない状況で、朝の網（漁）を3回、4回やれるのを一網でやめたり、朝8時くらいに、沖に行くのをやめたりという状態が続いています。

そのために、加工業者に乾燥器とかいろいろな機械を導入してもらいたいのですが、加工業者のほうは後継者があまりなくて、将来に向けた設備投資が難しいんです。

安芸漁港には、大きな未利用の土地があり、そこに、今いる加工業者が移転してくれて乾燥機などを付けてくれるのが一番理想なんですけど、新規参入で加工業者に来てもらうというのも是非お願いしたいです。そこで他のお魚も売れる物販の施設とか、釜揚げちりめん井などを食べられるような施設があればと考えています。

水産の振興とあわせて観光の振興にもなるんじゃないかと考えています。

知事： 釜揚げちりめん井、おいしいですし、ちりめん井販売店のマップができたりしていますね。私も今回データを見させていただいて驚いたんですけど、安芸漁協さんは若い方がたくさんおられて、これは本当に貴重なことだと思います。要するに、獲れても加工ができないと、そこで頭打ちになってしまうということですね。

一次産業の素材というものを使って、県内で加工して付加価値つけて高く売って、そこで雇用を生み出すということができれば、いいプラスの循環ができるようになります。そういう取り組みは、他のところでも地域アクションプランを使って実施されています。

このグループでやるという主体を定めていただいたら、地域アクションプランというかたちで計画を固めやすくなっていきます。漁業振興、それから加工による雇用創出、さらに観光振興にもつながる良い機会だと思います。是非、やっていきましょう。

土地はある意味、我々のほうで柔軟に対応できると思います。ただ、主体を誰がやるかというのを決めていくのが、すごく重要になりますので、そこを一緒にご相談させていただければと思います。